



恋について

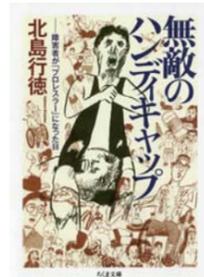
アントン・チェーホフ【著】
中村喜和【訳】
未知谷 2009年

推薦者：教員 笠潤平

《紹介文》
ゴーリキーはチェーホフについてつぎのように言っています。「…この無力なひとびとの退屈な灰色のひとと群れのそばを、大きな、賢い、すべてにたいして注意深い人間が通りすぎた。彼はおのれが故国のこれらの退屈な住人たちを眺め、悲しげな微笑と柔らかい、けれども深みのある非難の調子をもって、顔や胸に希望のない憂愁をもって、美しい心底からの声で言った。『きみたちはひどい生活をしていますよ、諸君！』(ゴーリキー「追憶」) 何となくこのような感慨を起こさせる人は私たちのまわりにも稀にいますね。

《レポート課題》
チェーホフの短編か演劇の台本から、「恋について」およびそれ以外の作品を1作以上読んで(ネットで「青空文庫」を探してみるとフリーでいろいろ読めるそうです)、人間について考えたことを自由に論じてください。

随筆・ノンフィクション



無敵のハンディキャップ

北島行徳 著
筑摩書房 2018年

推薦者：教員 林智一

《紹介文》
「障害者」と「健常者」がプロレスで闘う！……なんて？
「健常者」が「障害者」をぶっ飛ばす！……ひどいじゃない！
読み始めたら、あなたの中に、いろんな思いや想いがわき起こることでしょう。でも、目を背けずに、最後まで読みとおしてみてください。あなたがいま抱えている、ポリティカルコレクトではあるけれど空っぽな「障害者」像をぶっ壊すために！

《レポート課題》
あなたは(「健常者」としてであれ、「障害者」としてであれ)、「障害者プロレス」のリングで闘いますか？闘いませんか？その理由について、本書を読みながらの自分自身のこころの動きを見つめたうえで、考察してください。



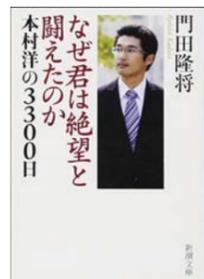
アナスタシア

ウラジーミル・メグレ【著】
水木 綾子【訳】
岩砂 晶子【監修】
ナチュラルスピリッツ社 2012年

推薦者：教員 長谷川修一

《紹介文》
著者のウラジーミル・メグレ氏は、1950年ウクライナ生まれ。元シベリア実業家組合会長。1995年にアナスタシアとタイガの森で出会い、体験を綴った本が1996年に自費出版され、ロシアで100万部、全世界で1100万部を突破！多くの読者のライフスタイルを変えた世界的ベストセラー！たぐいまれな美貌と叡智を備えたアナスタシアが語った人間観、自然観、宇宙観は、今の科学的知見とは異なります。科学的思考方法にこだわる方は、ファンタジーとして読めばいかがでしょうか？

《レポート課題》
なぜロシアをはじめ世界中の人々がアナスタシアの言葉に共感したのか、自らの考えを述べなさい。



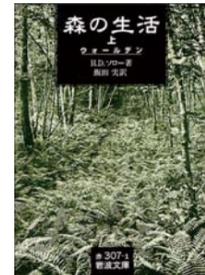
なぜ君は絶望と戦えたのか

門田隆将 著
新潮社 2008年

推薦者：教員 平野美紀

《紹介文》
1999年、山口県光市で最愛の妻子を殺された本村氏は、深い哀しみの中にあって、被害者支援に理解のない制度とその後約10年戦った。犯罪被害者や少年法をはじめとした我が国の刑事司法制度に関しての知見を広げつつ、彼を支え励ました人たちの温かさや人間の限りない強さに感動を覚えるであろう。

《レポート課題》
事件当時の犯罪被害者支援制度と、現在の制度との相違に留意しつつ、被害者支援制度に重要なことはなにか、自分の考えを述べなさい。



森の生活(上・下)

H.D.ソ【著】
飯田実【訳】
岩波書店 1995年

推薦者：教員 松島欣哉

《紹介文》
著者のヘンリー・D・ソローは19アメリカの著述家で、現代の環境保護思想に先鞭をつけた人物の一人と目されている。本書は、彼がウォールデン湖の畔で2年2ヶ月の間、独居したときのエッセイである。

《レポート課題》
本書には彼の環境保護思想は明確には出ていないが、自然の中で独居生活をする彼と自然との細やかな交流が描かれている。彼の自然との交流あるいは随所で示される人間社会批判を読んで、あなたが考えたことを理論立てて説明しなさい。



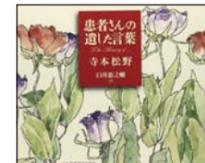
108年の幸せな孤独

中野健太【著】
KAD OKAWA 2017年

推薦者：教員 田中健

《紹介文》
20歳で移民としてキューバに渡ってから、一度も日本に帰らずに108歳で亡くなるまで生涯独身で生きた島津三一郎。島津、キューバ日本人移民の子孫、日本に残る島津の親類へのインタビューを通して、歴史に記録されずに消えていくはずだった日本人移民の記憶が浮かび上がってきます。その人生は幸せなものだったのでしょうか。

《レポート課題》
「生きる」とはどういうことなのか、そして、「生きる」中での「幸せ」について、このノンフィクションを読んだ上で考察し論じて下さい。



患者さんが遺した言葉

寺本松野【著】
日本看護協会出版会 2002年

推薦者：教員 清水裕子

《レポート課題》
本書を読み、「心に残った患者さんのことば」を複数引用し、死までに人はどのように生きるべきかを考え、記述して下さい。

表紙はワープロ(見本添付)、レポートは手書き、ワープロどちらでもよい。

【お願い】
清水裕子先生に提出するレポートには必ず表紙を付けてください。

香川大学 ネットプログラム 人間探求(文学作品熟読)プログラム	表紙見本
「患者さんが遺した言葉」から	
提出日	平成 年 月 日
所属学部	香川大学 学部
学籍番号	_____
氏名	_____



物理学は越境する

和田昭允【著】
岩波書店 2005年

推薦者：教員 久富信之

《紹介文》
「物理学で生物がわかるはずがない」「生物物理はいかがわしい」といった非難のあるなかで、自然科学に境界はない、という姿勢で生命の解明に突き進んだ著者により、自身の研究を振り返りその実績を通じて、横断的かつ境界領域の研究にどう取り組むべきか、について語られた著作。

《レポート課題》
この作品で論じられている日本における自然科学の問題は何か、今後、自然科学はいかにあるべきかについてあなたが最も強く感じた点について自由に論じなさい。



捨身なひと

小沢信男【著】
晶文社 2013年

推薦者：教員 笠潤平

《紹介文》
「この道を泣きつわれの ゆきしこと、わが忘れなばたれか知るらむ…ツブラヤ・ニゲロ、人は振り捨てて生きていく」の小沢信男氏が60年

代の「新日本文学会」の文学運動の中で兄事した花田清輝氏、長谷川四郎氏、中野重治氏や、後に相知るようになった詩人辻征夫氏の人生を記念する文章をあつめた本である。ぼくは、同会の編集部にいた父から花田氏、長谷川氏、あるいは小沢氏自身の話を、武田泰淳氏、野間宏氏、安部公房氏の話などとともに昔、楽しく聞いた。父もとりわけ花田氏と長谷川氏を深く敬愛していた。確かに文学をするということは、人生を終って見れば、捨て身に生きるということなのかもしれない。幸せなことだけれども。

《レポート課題》
本書に出てくる作家、詩人について1人取り上げ、その作品を1つ以上読みそれを踏まえて、小沢氏の文章について考えたことをまとめてください。